

【美術科】

造形的な見方・考え方を働かせて表現を追求し、 創造活動の喜びを味わう生徒の育成

山本真司

美術科では、創造することの喜びを感じるとともに、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働きや美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むことが求められている。

本研究では、資質・能力を育むために、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて表現を追求し、創造活動の喜びを味わうにはどうしたらよいかに焦点を当てて実践を行った。

本稿では、その実践の成果と課題について考察し、その結果を報告する。

1 主題設定の理由

1. 1 学習指導要領の改訂より

学習指導要領等の改訂の経緯にもあるように、複雑で予測困難な時代を生きぬくために、「様々な変化に積極的に向き合うこと・他者と協働して問題を解決していくこと・知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと」が求められている。

美術科の課題として、感性や想像力等を豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり、鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成すること、造形や美術の働きや美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することが挙げられている。また、造形的な見方・考え方については、[共通事項]と関連させて位置付けている。

以上を踏まえ、これからは、

- ・表現を追求する過程で、資質・能力を相互に関連させながら造形活動を行う姿
- ・造形的な見方・考え方を働かせて、形や色彩をとらえ、よさや美しさを感じ取りながら、自分なりの意味や価値をつくりだす姿を目指すことが大切になると考える。

1. 2 主体的・対話的で深い学びを目指して

また、学習指導要領の改訂では、新たな時代の学びとして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進が求められている。

本校の美術科では、主体的・対話的で深い学びを、「主題を表現するために目的意識をもって

学び、自己と対話したり、他者と批評し合ったりして、制作し、創造する喜びを味わうこと」と捉えている。また、主体的・対話的で深い学びのための鍵として、造形的な見方・考え方を働かせることが示されている。

1. 3 昨年度の研究から

昨年の研究では、「造形的な見方・考え方を働かせる」ということに焦点を当て、研究を進めてきた。そのために、身に付けさせたい造形的な見方・考え方を題材指導計画に位置付けたり、造形的な見方・考え方のよさを実感させるための鑑賞を行ったりした。その結果、次のような成果と課題が見られた。

成果

- ・学習過程の中で造形的な見方・考え方に「気付く場」「よさを実感する場」を設定したことで、新たな造形的な見方・考え方に気づき、制作に取り組むことができた。

課題

- ・生徒が自ら新たな造形的な見方・考え方を求め、制作をするにはどうすればよいかを明確にする必要がある。

今日的な課題や昨年度までの研究から、明らかにしたいことを以下のように決めた。

- ・生徒自身が、造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を相互に関連させながら表現するにはどうしたらよいか。

以上を踏まえ、研究主題を次のようにした。

美術科研究主題

造形的な見方・考え方を働かせて表現を追求し、創造活動の喜びを味わう生徒の育成

2 願う生徒の姿

全校研究で願う生徒の姿との関わりを考え、美術科で願う生徒の姿を次のようにまとめた。

表現や鑑賞において、

- ・ 主題を表すために、自ら形や色と関わり、課題を見つける姿
- ・ 形や色・表現をどうしたらよいか試行錯誤して考える姿
- ・ 表現を試しながら、主題と照らし合わせ、よりよい表現を求める姿
- ・ 自己や他者との対話を通し、自分らしい表現を創り出す姿

生徒は、主題を表すために、発想や構想を練ったり、創造的な技能を発揮したりして、形や色で表現していく。しかし、その過程はすぐに願う表現にたどり着けるものではない。「主題を表現するにはどうしたらよいか。」を試行錯誤して考え、よりよい表現を求めていくことで、自分らしい表現が生み出され、創造する喜びを味わうことにつながる。

3 造形的な見方・考え方について

3.1 造形的な見方・考え方を働かせるとは

願う生徒の姿に迫っていくためには、生徒自身が「造形的な見方・考え方を働かせる」ことが重要であると考え。学習指導要領では、造形的な見方・考え方を働かせることを「感性や想像力を働かせて、対象を造形的な視点で捉え、自分なりの意味や価値をつくり出すこと」としている。

例えば、抽象的な彫刻に対する造形的な視点の育っていない生徒が、実際に抽象的な形の作品に触れ、動きなどの造形的な視点で形を捉えることで、そのよさや美しさを感じ取ることができるようになる。感じ取ったことは、制作に活かされていく。このように、新たな造形的な視点を自分のものにするには、自分なりの意味や価値をつくり出すことにつながるといえる。

以上のことから、より深い学びに向かうためには、造形的な見方・考え方を働かせながら制作するためにはどうしたらよいかを明確にする必要がある。

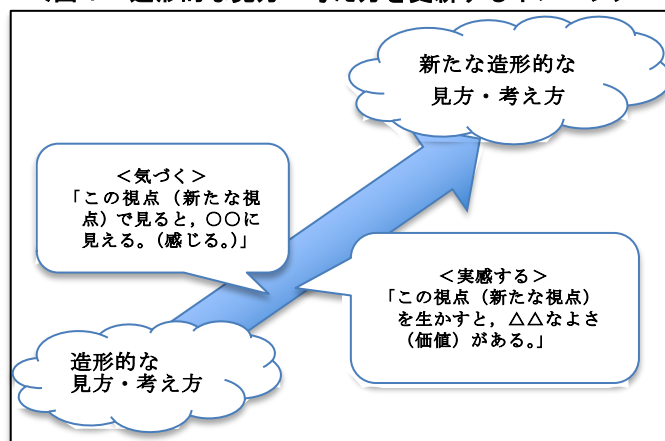
3.2 造形的な見方・考え方を働かせるための学びの過程とは

では、どのようにすれば、生徒は、造形的な見方・考え方を働かせながら造形活動をすることができるのだろうか。

本校美術科では、表現や鑑賞を通して、自分にはない造形的な見方・考え方に「気付くこと」、その「よさを実感すること」という過程が必要だと考えた。

「この視点で見ると、こんなふうに見える。」といった気付きや、「この色や形には、こんなよさがある。」と言ったよさの実感を通して、生徒の造形的な見方・考え方が更新されていく。(図1)

<図1 造形的な見方・考え方を更新するイメージ>



3.2 生徒自身が造形的な見方・考え方を働かせるには

昨年度の課題から、生徒自身が造形的な見方・考え方を働かせる視点をもつことが大切だと考え、以下のことを「形や色をみる視点」としている。

形や色をみる視点

「違う視点で見るとどうなるだろう。」

「この形や色にどんな意味や価値があるのだろう。」

生徒自身がこのような視点をもって、形や色を見たり、作品と関わったりしていくことが大切だと考えている。

4 研究仮説

以上のことから研究仮説を次のように考えた。

身に付けさせたい造形的な見方・考え方を明確にし、生徒自らが造形的な見方・考え方を働かせて造形活動ができる授業を展開すれば、願う生徒の姿に迫ることができるだろう。

5 研究内容

研究内容を次のように設定した。

【研究内容 1】

新たな造形的な見方・考え方に気づき、よさを実感するための題材の在り方

- (1) 題材指導計画の工夫
- (2) 題材における意図的な鑑賞の場の設定
- (3) パフォーマンス課題を設定した鑑賞の題材の開発
- (4) 多様な造形的な見方・考え方に気づき、よさを実感する題材の開発

【研究内容 2】

創造性を発揮するための学習過程の在り方

- (1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現のよさや美しさを味わう導入の工夫
- (2) 新たな造形的な見方・考え方に気付くための交流の工夫

【研究内容 3】

創造活動の喜びを味わうための振り返りの在り方

【研究内容 1】

新たな造形的な見方・考え方に気づき、よさを実感するための題材の在り方

(1) 題材指導計画の工夫

題材を通して身に付けさせたい造形的な見方・考え方を明確にし、題材指導計画に位置付ける。育みたい造形的な見方や考え方を明確にすることで、生徒の具体的な姿を描き、手立てを講じることができる。(題材指計画参照)

また、題材だけでなく、三年間の美術の学習を通して、どんな造形的な見方や考え方を育成したいのかを明確にする必要があると考えている。

(2) 題材における意図的な鑑賞の場の設定

生徒の中にない新たな造形的な見方・考え

方に気づいたり、実感したりするためには、意図的な鑑賞を行うことが必要だと考えた。

そこで、題材の導入では、題材で身に付けさせたい造形的な見方・考え方をつかみやすい作品を提示し、「気づくこと」を意識した鑑賞を行う。「造形的な特徴は何か。」「その形や色のよさや美しさは何か。」を考え交流することで、新たな見方・考え方に気づけるようにする。

また、題材の終末には、造形的な見方・考え方の「よさを実感すること」を意図した鑑賞を行う。例えば、作品だけでなく作者の残した言葉などを合わせて紹介したり、題材の導入で紹介した作品をもう一度見せたりして、鑑賞する。制作をする前と後では、生徒のもつ造形的な見方・考え方は変容しているため、同じ作品であっても違った視点で鑑賞することができる。前には気づかなかったこと、感じなかったことに気づき、その意味や価値を実感することができる。

以下に示すのは、その実践例である。

<実践 1 題材における意図的な鑑賞の場の設定 1年生 「私の手」>

○題材について

この題材は、自分の手を見つめ、バランスや量感を捉えながら、気持ちを表す手を主題に設定し、芯材に粘土をつけたり、とったりして制作する題材である。(10時間)

○意図的な鑑賞について

<題材の初め> 1 / 10

この題材は、中学校に入学して初めて行う彫刻の題材である。手を通して、その人の気持ちまで表すことができるという造形的な見方・考え方に「気付く」ようにするために、デューラーの「祈る手」を鑑賞した。その時の生徒の意見は次のようである。



写真1：デューラー「祈る手」

「この作品からどんなことを見つけましたか。どんなことを感じましたか。」

- ・しわとか爪とかつくってあってとてもリアル。
- ・しわからきつとお年寄りだと思う。何かを祈っているようだ。

<制作> 2 / 10 ~ 9 / 10

制作では、主題を表現するために、手の量感や、動きなどを意識して制作を進めた。



写真2：生徒作品「未来へのぼす手」

<題材の終末> 10 / 10

仲間の作品を鑑賞した後、最初に見たデューラーの「祈る手」を鑑賞した。最初とは違って見えることなどを中心に鑑賞した。生徒の意見は次のようである。

「最初に見た作品です。どんなことを感じますか。違って見えますか。」

- ・この絵からこの人は自分よりも他の人のことを思って生きてきたような温かみを感じました。自分も手を作って、ただ綺麗な手がよい作品ではなく、主題を表現した手であることが大事なのだと思いました。
- ・最小はただ上手な絵だと思っていたけれど、今改めて見ると、祈る手にすごく力が入っているのがわかる。とても思いが強いのではないかと感じました。

このように、題材の導入の鑑賞では、見た目のよさや美しさに関する意見が多かったのが、題材の終末では、作品のよさや美しさから、自分なりにイメージを広げて、鑑賞していることがわかる。造形的な見方・考え方を働かせることで、より深く作品と対話し、作者の考え方にも思いを巡らせながら鑑賞しているといえる。

(3) パフォーマンス課題を設定した題材の開発

新たな造形的な見方・考え方に「気づく場」として、3か年を通して、対話的な活動を取り入れた鑑賞単独の学習を行っている。

この鑑賞では、アートカードや美術作品などの作品のよさや美しさを感じ取る活動に終わるのではなく、「カルタを作る」「企画展を開く」「物語を作る」などのパフォーマンス課題を取り入れた授業展開を考えている。そうすることで、鑑賞の学習でも、造形的な見方・考え方を働かせて、自分の考えを主体的に表現したり、仲間と対話したりすることができる考えた。

現在本校では、アートカードを用いた鑑賞とパフォーマンス課題を次のように設定し、系統的に鑑賞の能力を育てている。

表1 アートカードを用いた鑑賞のパフォーマンス課題

| | |
|------------|---|
| 1年生 1時間 | 「アートカードカルタを作ろう」 ○パフォーマンス課題 形や色からイメージを広げ、カルタの読み札を考えよう。 ○学習活動 形や色彩を捉えたアートカードの読み札をつくり、カルタ取りをする。 |
| 2年生 1時間 | 「企画展を開こう」 ○パフォーマンス課題 形や色の共通点を見付け、自分だけの企画展を考えよう。 ○学習活動 アートカードの中から3～5枚を選び、共通点を見つけて企画展を考え、互いに評価しあう。 |
| 3年生 2時間 | 「アートカードストーリーを考えよう」 ○パフォーマンス課題 絵の特徴を見付け、つなげて物語を考えよう。 ○学習活動 4枚の絵を選び、登場人物の気持ちや情景をイメージしストーリーを考え、交流する。 |

次に示すのは、鑑賞後の各学年の生徒の感想である。

<1年生「アートカードカルタを作ろう」後の生徒の感想>

- ・絵の見方で、何に注目するのかを変えることで、全く違った作品に見えてきました。
- ・自分の班で考えたものと、他の班が考えたものでは違っていて疑問が生まれましたが、話し合うことで納得できました。

<2年生「企画展を開こう」後の感想>

「一見共通点がないように見える作品どうしても新たな観点から見ると面白い発見がたくさんありました。また、同じ絵を選んでいるのに見方やイメージが違って、個人個人で考え方やとらえ方が違うので面白かったです。きっと、作者の考えたことと自分たちの考えたことは違うと思うけれど、そのちがいが面白いと思いました。」

＜3年生「アートカードストーリーを作ろう」後の生徒の感想＞

今日は4枚のカードを使って物語を作りました。その中でも、絵の組み合わせや解釈の違いで全く違った物語になり、様々な表現ができることがわかりました。絵の感じ方も一人一人違って面白かったし、〇〇だから△△ではないかと想像することができてよかったです。

感想からもわかるように、生徒は、自分の考えをもって、仲間と対話をする中で、新たな造形的な見方・考え方に「気づく」瞬間があることがわかる。意図的な鑑賞が生徒の造形的な見方・考え方を働かせると言える。

(4) 多様な造形的な見方・考え方に気づき、よさを実感する題材の開発

中学校3か年の限られた時間数の中で、多くの作品に触れたり、多様な表現方法に触れたりすることは、表現の幅を広げ、創造活動の喜びを味わうことにつながっていくと考えている。そこで、実態に応じて表現方法を自分で選択できる題材を設定していく。

＜実践2 多様な造形的な見方・考え方に気づき、よさを実感する題材の開発 2年生 「私を見つめて」＞

○題材について

この題材は、自己を見つめ、主題を生み出し、描くという自画像の題材である。本題材で工夫した点は、描画材を限定するのではなく、鉛筆、パス、水彩絵の具、アクリル絵の具を用い、主題に合った表現方法を追求できるようにしたところである。(10時間)

○生徒の作品より



生徒作品：鉛筆



生徒作品：パス



生徒作品アクリル：絵の具

＜題材終わりの生徒の感想＞

今回の作品作りを通して、日に日に変わっていく自分をきちんと見つめることができたと思う。仲間の作品もいろいろな表現方法があって、主題とつなげてみると、その思いがよく伝わってきた。作家の作品にもいろいろな自画像があって、個性が出ていて面白いと思った。

このように学習した画材を自分で選択して制作することで、生徒は主題に合った表現を追求することにつながった。また、交流でも、多様な表現のよさや美しさを感じ取ることができた。

【研究内容2】

創造性を発揮するための学習過程の在り方

(1) 造形的な見方・考え方を働かせ、表現のよさや美しさを味わう導入の工夫

単位時間の導入では、造形的な見方・考え方を働かせて見ることができるよう、造形的な視点を絞った作品を紹介し、鑑賞する時間を取る。作品から見つけたことや感じたことだけでなく、「形や色を見る視点」を使って、どこがよいのかを考えていくことで、造形的な見方・考え方を働かせるきっかけになると考えている。

＜実践3 造形的な見方・考え方を働かせ、表現のよさや美しさを味わう導入の工夫 3年生 「私の印章」＞

○題材について

この題材は、中学校3年間の思いを込めた手作りの印章を制作するという題材である。印稿は、篆書体の名前を陽刻で彫り、持ち手は、抽象的な形で彫る。(12時間)

○導入の工夫について(2/12)

持ち手のアイデアスケッチをする時間には、ブランクーシの「空間の鳥」を鑑賞し、動きを抽象的な形で表すという造形的な見方・考え方に気付けるようにした。



写真5：ブランクーシ「空間の鳥」

○発問の工夫について

この時間では、まずは、「この彫刻からどんなことを感じるか。」と尋ね、自由に感じたことを交流した。

その後、「空間の鳥」というタイトルを伝える

「この作品からどんなことを見つけましたか。どんなことを感じましたか。」

- ・細くて鳥の羽のようだ。
- ・光輝いていて、まっすぐな力強さを感じる。でも、細いところからどこか弱いようにも感じる。

と、生徒からは「なるほど」「え？鳥なの？」という反応がおきた。そこで、「なぜ作者は、空間の鳥を表現するために、鳥の形ではなく、抽象的な形にしたのか。」という発問をした。

「なぜ作者は空間の鳥を表現するために、抽象的な形にしたのだと思いますか。」

- ・飛ぶ鳥の形は目で見えないから、あえて鳥の形にしず、自由に飛んでいる様子をシャープな線で表現したのではないか。
- ・彫刻だけでなく、空間も作品にしている。「鳥」という生き物らしさ、今にも飛びたいという躍動感を表したのではないか。

このように、「なぜ」と問うことで、生徒は、作者の表現の意図を考えることができ、新たな造形的な見方・考え方に気付くことができた。鑑賞において、作者の表現意図を考えていくことは、自分にはない造形的な見方・考え方に気付くきっかけになるといえる。

また、この発問の後、ブランクシーの言葉「この作品は、抽象ではなく、本質を表現した具象である。」を紹介したことで、さらに、抽象的な形のよさを実感することができ、意味や価値をつくりだすことにつながった。

(2) 新たな造形的な見方・考え方に気づくための交流の工夫

新たな造形的な見方・考え方に気づくための場として、仲間との交流を意図的に位置付けている。そこでは、制作の進み具合により、次のような交流を行う。

- ① 主題が似ている生徒同士が交流を行う。
- ② 自分とは違う主題やアプローチの仲間を探して交流する。

交流では、「形や色を見る視点」を生かして作品を鑑賞するように促すことで、自分にはない造形的な見方・考え方に気づくことができる。

【研究内容3】

創造活動の喜びを味わうための振り返りの在り方

制作で立ち止まった瞬間、悩んだり迷ったりした瞬間は、新たな方向を見つける節目になる。振り返りでは、自分の制作について、主題と照

らし合わせながら考え、次への方向を見出せるようにしている。

次の文章は、1年生「文字のデザイン」の下がきを終わらせた時の生徒の振り返りである。

<生徒の感想より>

今日は文字の①配色を意識しながらスケッチを終わらせ、下がきまでできました。配色については背景と文字を補色にすることで、②文字を引き立たせることができました。下がきでは、中心や外側との幅を考えながら、ちょうどいい大きさになるよう調整しながらできました。③次は配色を意識して絵の具をぬっていきたくです。

振り返りの視点として、①本時主題を追求するために課題としたこと②追求過程で考えたこと、気づいたこと③次時へ向けて（次時への課題）を視点にして書くことで、個々の学びが確かなものになり、次の時間へと繋げることができると考えている。以下は、「文字のデザイン」における生徒作品である。



写真8：生徒作品「鳥」



写真9：生徒作品「凍」

8 成果と課題

本実践を通して、次のような成果と課題が見えてきた。

成果

- ・造形的な見方・考え方を働かせるために、学習過程の中で「気づく」「よさを実感する」場を設定したことで、新たな造形的な見方・考え方に気付くことができた。
- ・造形的な見方・考え方を働かせる視点を明確にし、共有したことで、生徒自身が意識して制作することができた。

課題

- ・小中9か年を通して、造形的な見方・考え方を意図的に育成できるようなカリキュラムを設計していくこと。